



① ウォーカーズパークまで車で登ることも出来る。『隠居の森遊歩館』や炊事棟も完備。キャンプを楽しむ人も多い。ここから山登りだ。



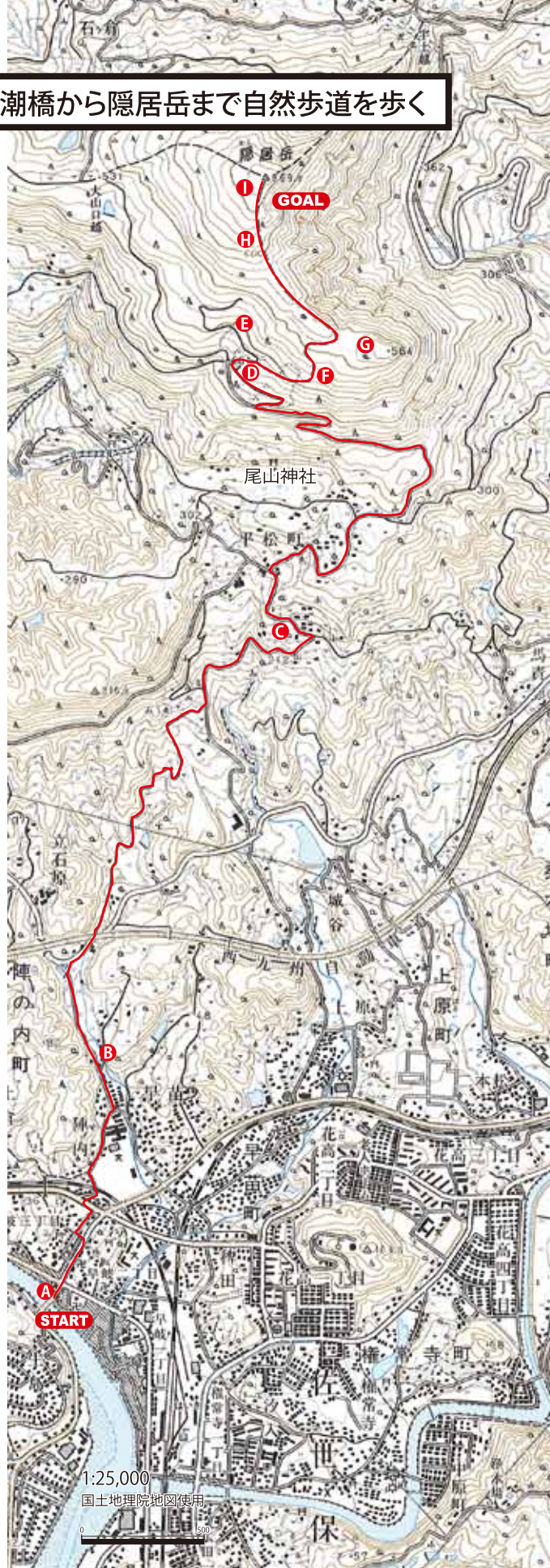
② ウォーカーズパークの上にある展望台。晴れた日の展望はみごと。佐世保の美しさを満喫出来る。



九州自然歩道の道標が立つ風景。なんだかのんびりと歩きたくなる。この平松から黒髪へと道が分かれている。



③ ツツジ園からは稜線依いに緩やかな道が続いて楽しい。電波反射板の脇を通ると、すぐに隠居岳山頂に着く。



コース 9

早岐・観潮橋から隠居岳まで自然歩道を歩く

CHECK!!!



ミツバツツジ
隠居岳でもヤマツツジに先んじて4月～5月に薄紫の花をつける落葉低木。枝先に三枚の葉をつけるためにこの名前がついた。



フデリンドウ
明るい林に生育する越年草。腐葉土から伸びた数センチの茎に、春、青い花をつける。名前は蕾の形を筆の穂先に見立てたもの。



ノアザミ
アザミの仲間が多く、日本だけで80種もあるといわれるが、春に咲くのはノアザミだけ。元気に紫色の花を咲かせる多年草。



ウマノアシガタ
春の陽光に照らされて光沢のある黄色い花を咲かせる。別名キンポウゲ(金風花) 田んぼの畦や路傍に見られる馴染みの花の一つ。



④ 平松の台地に集落が望める。南向きの明るい陽を受けた地形が、山里の風景を楽しませてくれる。



『尾山神社』は隠居岳に向かう途中から少し左に行ったところに、湧水があって、鬱蒼とした社叢はまさに鎮守の森だ。



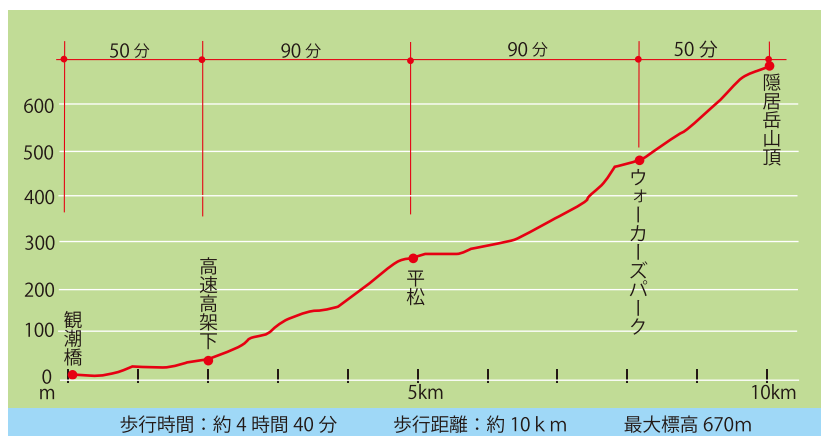
⑤ 早岐中学校の脇を通過して住宅地を抜けると、すぐに長閑な散策道になった。隠居岳は遥か遠くに。



から15分ほどで『ツツジ園』だ。このときはミツバツツジが満開だった。五月下旬から六月初旬までヤマツツジが赤く彩る。さらに、なだらかな稜線をたどって電波反射板の横を登って隠居岳山頂(670m)に着いた。晴れたときの眺望は素晴らしい。ここで烏帽子岳から大山口越を越え道と合流するのだが、九州自然歩道はさらに宇土越を経て国見山へと続いている。



⑥ 早岐瀬戸が一番狭まったところに観潮橋が架かる。ここからスタート。



ウォーキングメモ 隠居岳のヤマツツジ

隠居岳のツツジ園には、ヤマツツジ約4万本が自生する。樹高1~4mの半落葉低木で、5月下旬から6月初旬にかけ、真っ赤な花を咲かせて訪れる人を楽しませる。ウォーカーズパークから15分ほど。公園と言っても山道を歩くのでウォーキングシューズなど足元の用意を。



佐世保市内を『九州自然歩道』が通っていることをご存じだろうか。九州自然歩道は環境庁(現・環境省)が、昭和55年に長距離自然歩道構想にもとずいて整備した自然歩道だ。今回は早岐の観潮橋から、隠居岳山頂まで約8キロを歩いた。田子の浦の交差点から北上する道を歩き、早岐中学校の脇を通過して陣の内町の裏道を進む。住宅地を抜けるとすぐに散策道があるのが面白い。やがて道は『西九州自動車道』の高架を潜るのだが、ここからは今の車道ではなく昔からの細い道を歩くことにする。斜面をまわり込んで続く道の向かう先には、平松の台地を事前に、「山笑う」と俳句の季語が表現するようなむくむくとした山が望める。隠居岳は平家の落人が隠れたという話もあるようで、それを思わせる山里の風景だ。道を逸れて『尾山神社』に立ち寄った。懐かしい鎮守の森だ。盆地状の一角は土が黒々として、山の豊かさが養分のある土を作るのだと実感する。平松町からは右手に車の道を進む。途中で歩道と車道が分れるが、枯葉が敷かれた歩道を進むと、やがて『隠居岳ウォーカーズパーク』に出た。駐車場やトイレがあって、ウォーキングのポイントになっている。ここまで車で来ても出来る。かつては茶畑だった道を登って行く。途中でパークの上にある展望台からの風景を楽しんだ。遙かに佐世保湾と市街地が望めた。杉林から自然林となって、やがてまわりがヤマツツジの群落になる。ウォーカーズパーク

九州自然歩道をたどって